

(別記様式)

令和5年度 京都府立宇治支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)年間(計画段階・**実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>◆教育理念「喜びはともにあること」のもと、教育目標「よりよく生きる力をはぐくむ」を実現するための各学部段階の教育に繋がりをもたせ、学校全体で進める。</p> <p>◆児童生徒が、地域社会に貢献し、地域社会で幸せに暮らすことができるよう、地域や保護者とともに本校の教育を進める。</p> <p>◆京都府スーパーサポートセンター(以下SSC)の機能を生かし、各地域支援センターや各教育局、総合教育センター等と連携し京都府内全域の特別支援教育を進展する。</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の中、教育活動を工夫し全校で安心安全な学校運営を意識して取り組めた。 ・働き方改革の視点を持ち、できるところから具体的に改善し職場環境の改善に努めた。 ・会議や研修会、行事に応じたICT機器を活用することが定着した。 ・学習指導要領を踏まえた授業改善を進めることで、全校テーマをもとにした各学部での授業実践に取り組めた <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題の状況に応じて迅速に検討、対応し安心安全な学校づくりに努める。 ・校内における更なるICT活用の推進を図る。 ・系統性をもった各学部の教育実践を進める。 ・働き方改革についての改善策を検討する。 ・特別支援学校の教員として知識を広げ、資質向上にむけ、学部や分掌と連携し学習会や研修会を推進する。 	<p>【学校機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有による風通しのいい学校経営 ・安心安全な学校経営、感染症の状況に応じた対応 ・児童生徒増加への適切な対応 ・保護者・地域とともにある学校づくり(学校運営協議会の活用等) ・全校におけるICT活用 ・特別支援学校の教員としての資質向上にむけた取組の実施 <p>【教育課程検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討会議を中心とした教育課程改善 <p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿った教育活動の実施 ・教科の「見方・考え方」を踏まえた単元目標設定 ・よりよく生きる力を育む授業の推進と学校目標実現にむけた計画的・組織的な教育活動 <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識した勤務姿勢 ・各学部、各分掌における働き方の再考 ・働き方改革プロジェクトを中心とした効率的な働き方への提言

	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・適正で風通しのいい学校経営の推進	・各学部による学校経営方針を具現化するマネジメントの実施	B	・各学部によって、情報共有、働き方等、学校経営方針が具現化されたマネジメントが各学部で行えた。・職員朝礼のTeams活用に加え、Teams教職員ネットの活用が増え、学校運営等について情報共有ができてきた。・いじめ、いきすぎた指導アンケートを実施し、人権を意識して指導者間で日常的に声掛けをする等もあった。・各部、各校務分掌で時間を意識し、効率化を図り、学校全体として、昨年度に比べ時間外の勤務時間が15%ほど減少してきた。
		・学校運営に関する情報の全校共有	B	
		・「いじめアンケート」「いきすぎた指導アンケート」の実施による児童生徒や教員の人権を尊重する教育の推進	B	
		・児童生徒増加への適切な対応	B	
		・勤務時間を意識した業務の見直しと働き方の検討	B	
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・初任者や中堅教諭を中心とした教員への計画的な研修の実施	B	
	・特別支援学校教員の資質向上を目指し、外部人材等を活用した研修会やOJT研修の実施	B	・計画的に初任者、中堅教諭を中心とした研修を実施した。・全校研修会を16回実施し、また、希望研修では教育を離れた視点からアプローチした研修を実施する等、特別支援学校教員の資質向上を見据えた研修が行えた。	

	<ul style="list-style-type: none"> SSCによる京都府全域における各地域、学校園等の支援力、指導力向上の為の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 府専門家チーム委員を効果的に活用した相談支援、研修支援の充実 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> SSCでは、府の専門家チーム委員を活用した相談研修支援を年間で100件以上実施した。また研修支援については、85件の実施、5030名の方々に必要な研修を届けることができた。各依頼者団体等のニーズに迫った、専門的で実践的な研修を提供することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 府南部地域における視覚・聴覚支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関との有機的な連携推進 巡回、来所相談、障害理解教育サポート授業等とおした切れ目ない継続支援の実施 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> SSCの視聴覚支援部門では、山城地域の市教委や保健所との連携の強化、また来所、巡回相談を柱として、切れ目ない支援を推進することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 宇治市、城陽市と連携した支援力向上に向けた組織的な取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校園等の適切なニーズの把握を含む、学校コンサルテーションを実施し、市教委と連携した、枠組みづくりや、組織への効果的なアプローチ方法を具体化して進める 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援センターうじでは、継続した伴走型の支援に加え、城陽市教育委員会との協働、組織へのアプローチに繋がる「特別支援教育コーディネーター支援の手引き」を作成した。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域とともにある学校経営の推進 	<ul style="list-style-type: none"> HP、学校だより、掲示板等を活用した学校情報の発信(10回/月) 保護者や地域の方々からの意見を踏まえた教育実践の推進 学校運営協議会を活用した外部評価の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> HP、学校だより等を活用し、校内の行事等の情報発信ができた。保護者アンケートや学校運営協議会から意見をいただき、教育実践の改善の参考にしている。学校運営協議会をとおして、学校外の視点からの意見をいただいている。
	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全を具体化する取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策の実施 避難訓練(全校年2回)、緊急対応訓練(年3回)の計画的実施 医療的ケア安全委員会による医療的ケア児等に関する情報共有や医療的ケアヒヤリハット事象の共有 教室や教具等の安全点検の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況に応じ、換気等をはじめとする感染症予防対策を実施し、大きく感染が拡大することがなかった。計画的な避難訓練、緊急対応訓練を行い、避難訓練は大きく見直し、緊急地震速報を使用することで、教員、児童生徒ともに緊急時の対応への意識を高められた。 医療的ケアのヒヤリハット事象を、回覧で医ケアに携わる教諭と管理職に共有した。175か所の点検はFormsを使用し、効率を重視した安全点検へと変更し、ネットアップで修繕結果を全校へ周知した。
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの連続性を意識した各学部における教育課程の改善 教育課程検討会議を中心としたカリキュラム・マネジメントの推進 ICTを活用した授業の推進 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の見方考え方について全校研、学部研で学び、授業公開を行ったことで学校全体として理解が深まり、授業づくり、改善、評価に活かすことができた。今年度立ちあげた教育課程検討会議では、ウェルビーイングを取り入れ「基礎的な学習の時間」のあり方を検討したカリキュラム・マネジメントを行えた。各教科の見方考え方について全校研、学部研で学び、授業公開を行ったことで学校全体として理解が深まり、授業づくり、改善、評価に活かすことができた

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会とのつながりを意識した地域学習の積極的実施 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・各学部iPadの使用率は上がっているが、ICT機器の効果的な活用をさらに充実していきたい。 ・地域資源の活用をはじめ、民謡の会や学生の音楽サークルと新たにつながる等、地域社会と連携した授業実践を行った。 ・小学部の居住地校交流をはじめ、中学部、高等部では近隣、府立学校、私立学校等との生徒同士の交流が定着した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流及び学校間交流の実施 	B		
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じた希望進路の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を中心に総括主事、コース長、学級担任と連携した進路指導の実施 	B	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部生徒が増加する中、進路指導部を中心にコースや学級で連携し丁寧な進路指導を実施し、12名の企業就労をはじめ、希望進路を実現できた。 ・積極的な企業訪問を行い新規実習先を11カ所開拓でき、2カ所で雇用につながった。 ・職員対象の施設研修会は実施できたが、保護者研修会の実施には至らなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現を見据えた実習先、就労先新規企業開拓の実施 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路実現におけた保護者への情報提供、研修会の実施 	B		
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の土台となる生活基盤の確立におけた修学支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の生活基盤確立におけた適切な実態把握とケース会議の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・該当児童生徒に関わる教員からの協力を得てケース会議を実施し、危惧される情報収集や連携をすすめられた。 ・生徒指導対応委員会を軸に、必要に応じて各学部での会議を活用し、実態把握を行い、実態に応じた登校スタイルでの指導を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導対応委員会と各学部の連携による不登校の児童生徒の把握や、適切な生徒指導の実施 	B		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関しては、さらに充実させてもらいたい。避難訓練だけでなく、引き渡し訓練もできるところから手を付けてもらえたら良い。 ・進路の新規開拓11箇所の労力は評価できる。福祉事業所で役割分担できないことがないだろうか。 ・働き方の観点から見た教育課程改善については先生たちの状況がよくわかった。 ・交流及び共同学習、に関してそれぞれの場所で学びが深まっているので、小学校としてもさらにすすめていきたい。 ・植物園等の地域資源の活用をさらにすすめてもらいたい。
-----------------	--

次年度におけた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方の観点から見た教育課程改善 ・情報共有の徹底 ・防災教育、訓練のさらなる充実 ・全校授業実践でのICT活用
---------------	--